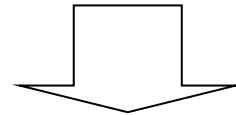


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<p>全体的に授業への関心が高く、積極的に取り組んでいるので進度の差はあまり見られないが、最後まで丁寧に仕上げるのが難しい。 発想が豊かだが、表現力は稚拙な面がある。 豊かな発想力を伸ばし、形や色彩の表し方など美術の基礎的技能をしっかりと身に付けさせることが必要である。</p>	<p>美術に苦手意識をもち始める生徒が増え、技能が十分身に付いていない場合がある。簡単なモチーフを選びがちで発想力に欠ける。 進めずにいる生徒には直接丁寧に教え、理解させ、美術に興味・関心をもたせるような取組が必要である。</p>	<p>苦手意識をもっている生徒は進度が遅くなりがちで、個人差が出ている。特に自分で独自に考えながら発想し制作していくことに苦手意識をもつ生徒に対し、いかに表現の広さ、興味・関心をもたせるかという取組が必要である。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ただ作業をこなすだけで美しさや完成度を求めて仕上げられない生徒をどう指導していくか。</li> <li>パターン化された稚拙な表現で済まそうとする生徒をどう指導していくか。</li> <li>道具の使い方、動かし方を身に付けさせる必要がある。</li> <li>苦手意識をもち、出来ないと諦める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、ここまで進めるという目標を板書し、生徒に作品制作の進度を意識させる。</li> <li>作品づくりに最後まで集中させる生き生きとした環境をつくり、制作時に机間指導と声掛けを増やす。一人一人にアドバイスをし、より良い作品ができるように指導する。</li> <li>自由度の高い小さいサイズでのアイデア出しをできるだけ多くやらせることで豊かな発想力を伸ばす。</li> <li>机間指導の際は色・形・技法・道具の扱い方について具体的な例を示してアドバイスを与える。</li> <li>生徒の実態にあった可能な表現や形成のコツを指導する。</li> <li>タブレットを用いて自分の表現したいものの適切なモチーフを探させることで、表現の完成度向上につなげる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術に対する苦手意識をどう取り除いていくか。</li> <li>表現の稚拙さをいかに高めていくか。</li> <li>技術と発想の思い切った取組をいかにして行うか。</li> <li>同じ表現に捉われず、発想の向上を図るための指導が必要である。 (富士山、海イルカに集中しがち)</li> <li>自分の好きなものを表現することへのためらいをどう取り除いていくか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術が苦手で、発想や構想の段階で簡単なものを考えアイデアを消してしまう生徒には、インタビュー形式で一人一人の好きなコト、モノを引き出し、美術の表現に落とし込めるよう促す。これを通して、自分の好きなものを表現する喜びや表現方法の多様性を体得させる。</li> <li>また美術が得意な生徒にはより完成度の高い制作へ導くための技法や色彩、構図についてレベルに応じた見方や技術を身に付けさせる。</li> <li>表現力が稚拙な生徒は作品の見本や資料を用意し、どのくらいのレベルを目指すべきかを理解させ、道具の扱い方や、形や色彩の表し方、美しく作るための技術を身に付けさせる。</li> <li>作品制作の過程で、出来るだけ直接実演で示しながらアドバイスし、発想が生かして技術に結びついていくかを実感させるようにする。</li> <li>タブレットを用いて自分の表現したいものの適切なモチーフを探させることで、表現の完成度向上につなげる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアを出したり、デザインを考えたりすることへの苦手意識をどう変えていくか。</li> <li>美術に苦手意識をもち、進度が遅い生徒をどう指導していくか。</li> <li>発想が集中しないための指導の工夫が必要である。 (「海+イルカ」、「富士山+太陽」、「鳥+木」)。</li> <li>作品を見つめ直す時間をもたせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術が苦手で、発想や構想の段階で、簡単なものを考えアイデアを消してしまう生徒には、インタビュー形式で一人一人の好きなコト、モノを引き出し、美術の表現に落とし込めるよう促す。これを通して、自分の好きなものを表現する喜びや表現方法の多様性を体得させる。</li> <li>また美術が得意な生徒にはより完成度の高い制作へ導くための技法や色彩、構図についてレベルに応じた見方や技能を身に付けさせる。</li> <li>いろいろな種類の図鑑や参考作品を置き、発想を誘発するための材料として活用させる。また、下描きの段階ではアイデアを広げたり、深めたりして発想を膨らませて考えさせる。</li> <li>美術が苦手な作品作りを諦めかけている生徒には、技術、思考、判断、表現の何が苦手なのかを自覚させアドバイスを与える。また、美術が得意な生徒には、さらにレベルの高い作品ができるようアドバイスを与える。</li> <li>作品の提出日までのスケジュールを考えながら作業を進められるように指導をする。</li> <li>表現の工夫ができるよう個々に合った技術を指導し、援助・支援をする。</li> <li>タブレットを用いて自分の表現したいものの適切なモチーフを探させることで、表現の完成度向上につなげる。</li> </ul>